

としょかん南アルプス

南アルプス市立図書館通信 NO.19 2012年1月5日発行 <http://lib.m-alps.ed.jp>



あけましておめでとうございます！

2012年も市立図書館をどうぞよろしくお願いたします。



地域の作家を紹介します！ No. 8

あいはら
相原 ちさと
千里さん

山梨文芸協会会長・山梨県民間教育団体連絡会会長
山梨平和ミュージアム評議委員・山梨歴史教育者協議会
山梨近代史の会・やまなし金子文子研究会
山梨県郷土算数研究会会員 他

著書

おはなし歴史風土記『夜叉神峠を越えて』第一部
おはなし歴史風土記『夜叉神峠を越えて』第二部
おはなし歴史風土記『誰がための祖国』（山梨自分史大賞）
おはなし歴史風土記『山梨 太宰治の記憶』（中村星湖文学賞優秀賞）
山梨文芸協会機関紙『イマジネーション』3号～9号 他多数

共著

『おはなし歴史風土記』山梨編 岩崎書店 『山梨の戦争遺跡』山梨日日新聞社
『山梨学講座6 山梨の人と文化』山梨ふるさと文庫 『四道河に眠る拓友に捧ぐ』 他多数



地域の人間の歴史を掘り起こし、「今を生きる・自分を生きる」人々を励ます仕事を、なかまたちと進めてきました。それゆえの歴史の学びは、通史ではなく、時代を遡って進められます。

故郷には、地域に生きた先人を語る素晴らしい研究が積み重ねられています。人間の歴史が創造し、確かめられた文化を、できるだけ、わかりやすく橋渡しをする役割を私は荷います。私のライフワークは、私たちの故郷を走り抜け、時代を大きく進めた「甲州一揆」になります。

御勅使川の扇状地の山方、根方、原野にも等しいという意味で原方と呼ばれた常習早魃^{かんぼつ}地帯と盆地のどん底に置かれ、天井川と釜無川の逆流に挟まれた水つき^{たすき}地帯に、わが故郷の先人が、たくましく生き、いのちを君についだ。箱根駅伝の襷のように。君は、いのちを次代につなぐランナーなのだ。負けてはならない。

故郷からの子たちへの伝言になります。

郷土の生んだ偉人を解き明かす貴重な本を紹介します!

駐米大使 埴原正直 (ちゅうべいたいし はにはらまさなお)

山梨に生まれ明治大正期の日米外交に尽した栄光と波乱を解き明かす 著者 雨宮 正英

駐米大使として明治・大正の日米外交に力を尽くした外交官・埴原正直(1876年～1934年)をご存知でしょうか? 埴原正直は、源村(現在の南アルプス市飯野新田)出身。東京専門学校(現早稲田大学)卒業後1898年に外務省に入り、外務次官、駐米大使を歴任し、日本を代表する外交官として国際舞台で活躍した人です。

1905年、日露戦争の講和条約を結んだポーツマス会議で翻訳を担当。1920年にはシベリアで飢餓に苦しむポーランド人孤児の救済に奔走したほか、1921年から翌年に開かれた初の国際的軍縮会議「ワシントン会議」では全権委員を任されるなど、外交官として数多くの功績を残しました。

著者の雨宮さんは、早稲田大学同窓会の山梨県支部事務局担当だった当時に、東京専門学校の県出身者を調べる中で、埴原正直の存在を知りました。日米外交で活躍し注目されていた埴原ですが、今では語られることはなく、関係する資料もほとんど見つからない状態でした。偶然に埴原が東京専門学校で使っていた図書館証を手に入れたことをきっかけに、雨宮さんは関係先や親戚を尋ねて資料の収集に取り組み始めました。

その後、集めた資料を本にまとめるという大変な作業を終えた雨宮さんは、昨年9月に『駐米大使 埴原正直』として出版し、県立図書館のほか、埴原の出身地である南アルプス市立図書館にも貴重な3冊を寄贈してくださいました。

埴原正直の足跡を丹念に追いかけたすばらしい本ですので、ぜひ一度手にとってご覧ください。非売品の上、発行部数が限られているため、インターネット上でも公開しているそうです。

アドレス <http://demo.kokumon.co.jp/hanihara135th/>

「南アルプス市は埴原正直の出身地なので、まだ彼に関する貴重な資料が眠っているのではないか」と雨宮さんはおっしゃっています。情報をお持ちの方は、ぜひ市立図書館までお知らせください。



図書館講演会のご案内



世界がもし100人の村だったら

～あなたもここに生きています～

講師 池田 香代子 氏

平成24年1月15日(日)

午後1時30分～午後3時00分(開場1時)

櫛形生涯学習センター あやめホール

※整理券が必要となります



櫛形図書館(055-280-3300) 櫛形図書館芦安分館(055-282-7285) 白根桃源図書館(055-284-6010)
八田ふれあい図書館(055-285-5010) わかくさ図書館(055-283-1501) 甲西図書館(055-282-7291)

小笠原諸島

～世界自然遺産～

南アルプス市は、「小笠原」という地名が縁で、小笠原諸島のある東京都小笠原村と姉妹都市協定を結んでいます。小笠原諸島は、1593年（文禄2年）小笠原長清の孫である小笠原貞頼によって発見されたと伝えられています。

このように南アルプス市に大変ゆかりのある小笠原諸島は、2011年6月にユネスコの世界自然遺産に登録され、日本国内にとどまらず、世界中から注目を集めています。そこで、図書館で所蔵している小笠原諸島に関する資料や、「小笠原」に関する資料の一部をご紹介します。

小笠原諸島関連資料



『遙かな海の小笠原』
半泊與則／著
風媒社



『小笠原で暮らしたい!』
川口正志／写真・文
言視舎



『ネイチャーガイドと
歩く小笠原』
実業之日本社

『野鳥もネコも
すくいたい!』
高橋うらら／文
学研



「小笠原」関連資料

小笠原長清とは・・・?

鎌倉時代に活躍した甲斐源氏の武将です。櫛形地区小笠原を本拠地としていました。また、弓馬術に優れ、現在の流鏝馬の作法を制定しました。その伝統は子孫たちに受け継がれ、やがて小笠原流流鏝馬や小笠原流礼法として発展しました。

大人も知っておきたいマナーがたくさん載っています!

『小笠原流こどもの礼法』
小笠原清忠／監修
アシェット婦人画報社



『小笠原長清公資料集』小笠原長清公資料検討委員会／編 櫛形町
『小笠原長清公覚書』櫛形町文化財審議委員会／編 櫛形町
『小笠原長清とその周辺』猪俣昭治／著 明野教育委員会



親子で読書を!!

南アルプス市教育委員会
教育長 横小路 允子

コタツに入ると、遠い昔の幼いころのことを思い出します。私の子どもころは、テレビも自動洗濯機もなく、ラジオの時代でした。子どもの楽しみは、近所のお友達と、鬼ごっこやビー玉等をして元気に外で遊び、雨が降ると家の中で、お手玉やおはじき、着せ替え人形などして遊ぶことでした。お友達と喧嘩もしましたが、すぐ寂しくなり仲直り。とても楽しい思い出です。

夕食を食べた後コタツに入り、母親が横に並びよく本を読んでもくれました。母親のぬくもりを感じながら、「白雪姫」「赤頭巾ちゃん」「一寸法師」等の本や、「あめふり」「しかられて」等の童謡の本を読んでもらいました。自分がお姫様や一寸法師になったり、鬼を退治したり、まだ見たことのない都の風景を思い浮かべたり、とてもとてもうれしい、ホッとする時間でした。

読書は、夢の世界、幻の世界、未知の世界や周りの物事を教えてくれます。現実の世界と空想の世界をつなぐ役目もしてくれます。本の中の体験や経験が、現実の苦しい体験や悲しい経験を乗り越える力を培い、豊かな想像力や思いやりの心を育ててくれるとも言われます。

親子で読書をし、たくさんの本を読みながら、多くの子どもたちが、現実の世界観を広げ、想像力をもち、健やかでたくましく成長してくれることを願っています。



図書館より・・・

市立図書館では、地域の皆様のお役に立てる図書館をめざして、2012年も図書館サービスの充実に努めていきます。

日々の暮らしの中で疑問に思ったこと、不安に感じたこと、興味を持ったもの、趣味についてなど、図書館でお手伝いできることがたくさんあります。お気軽に図書館をご利用ください。

今年も図書館ですばらしい出会いがあることを願っています。

